



北 山 三 学 区

ま ち づ く り

ビ ジ ョ ン

～京都の街から30分、  
こんなところに、ありました。～



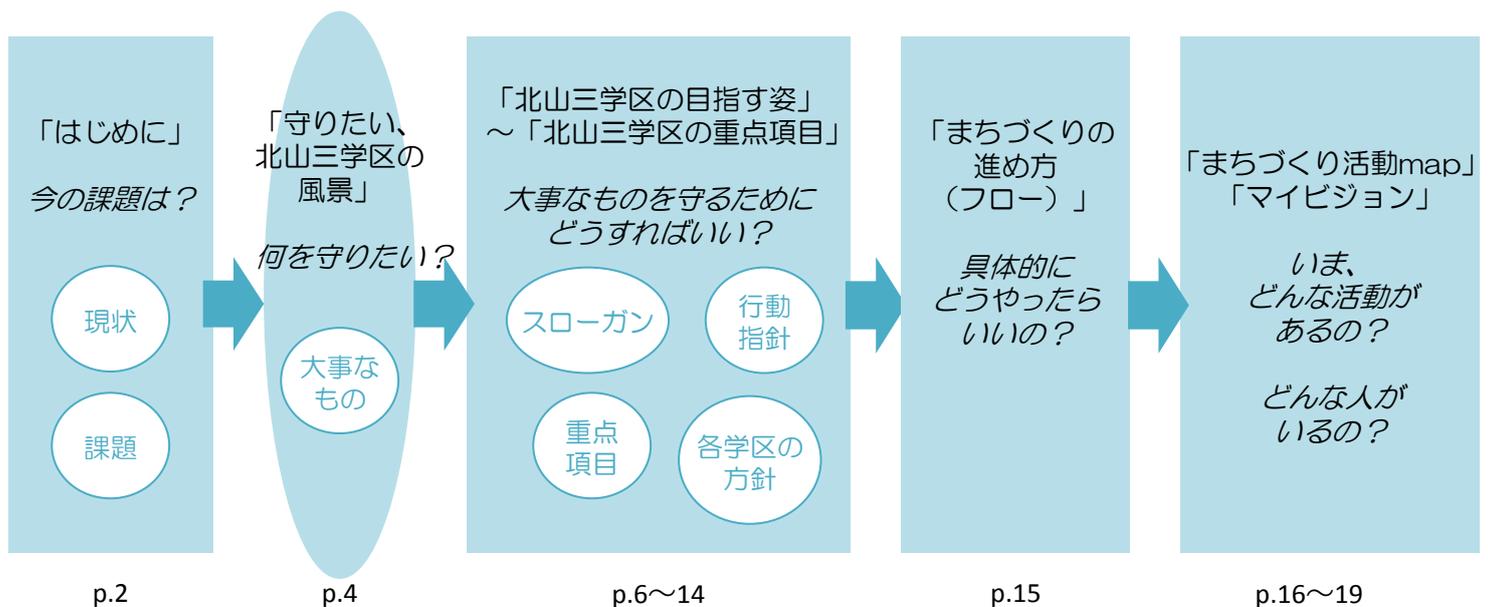
# もくじ

このビジョンの見方	1
はじめに	2
ビジョンづくりの経過	3
守りたい、北山三学区の風景	4
北山三学区の目指す姿	6
まちづくりの基本—7つの行動指針	7
小野郷学区のまちづくり	8
中川学区のまちづくり	10
雲ヶ畑学区のまちづくり	12
北山三学区の重点項目	14
まちづくりの進め方（フロー）	15
まちづくり活動 <sup>マップ</sup> map	16
マイビジョン—みんなが描く、北山三学区の未来	18
参考資料	20
-アンケート結果	20
-まちづくりキーワード集	21



# このビジョンの見方

このビジョンは以下のような構成でできています。これからのまちづくりに役立ててください。



# はじめに

## ●北山三学区のいま

私達の住む小野郷学区、中川学区、雲ヶ畑学区（このビジョンでは「北山三学区」とします。）は、京都市北区の山間地にあり、古くには都の造営や御所への木材などの供給地であり、その後も、高級材として床柱などに使われる磨き丸太生産や、薪炭・電柱用材などの林産物生産を主産業としてきました。

しかし、近年の木材需要の減少などによる地域経済の低迷やライフスタイルの多様化などを原因とした著しい人口減少（平成15年から平成25年の間に30%近く減少）、少子高齢化にともなう学校の休校やバス路線の廃止など、地域住民の生活に直結する共通の課題を抱えています。

一方で、私達の北山三学区は、市内中心部から車で数十分の近距離でありながら、豊かな自然が残っており、その美しい景観を背景に多くの史跡名勝や、地域独自の伝統文化を残している地域です。また近年では、都市部出身の若者が、都市部にはない暮らしと自らの「ふるさと」を求めて、山村で活動、就業、居住するといった動きもあり、北山三学区に期待されるものも大きくなっています。

私達は、この地域の資源を再発見し、よりよいまちづくりのためにそれらを活用する方策を考えると同時に、自らの地域に対する誇りや自信を再構築することが、今必要だと考えます。

### ～本ビジョンの位置づけ～

北区では「北区基本計画」（平成23年3月策定）において、今後10年間に進める施策・取組を10の分野ごとにまとめています。その中のひとつとして「自然と調和した住み良い北山三学区の創造」があり、地域住民が安心して住み続けられるための取組を進めるとともに、恵まれた自然環境を活かしながら地域を活性化することを目指しています。

このビジョンは、北区基本計画の取組のひとつとして、平成24～25年度の2年間にわたる「北区北部山間地域まちづくりビジョン策定事業」の中で、各学区での座談会（まちづくり部会）における議論、住民全員に対するアンケート、先進地の視察などを経て策定しました。

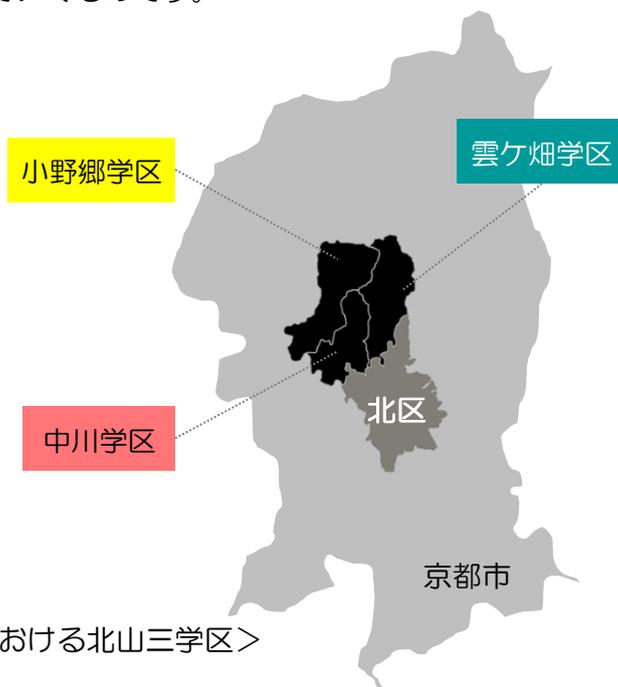
次ページ以降は、私達が主体的に自分達のまちのことを考え、言葉をつくり、100年後、1000年後に地域の宝を残すことを目的に様々な活動を行っていくうえで、今後5年から10年の間に指針とすべき考え方や目標をまとめたものです。

このビジョンは、今後、私達北山三学区住民がこれからのまちづくりの基本として、いつも手元に置いて振り返るとともに、地域内外へ発信していくものです。

### 【人口と高齢化率】（平成25年10月1日現在）

学区	人口	高齢化率
小野郷	285名	55.1%
中川	368名	41.8%
雲ヶ畑	171名	41.5%

※「高齢化率」とは…65歳以上の高齢者が人口に占める割合



<京都市における北山三学区>



# ビジョンづくりの経過

このビジョンは、私達が、主体的に自分たちのまちのことを考えて、平成24～25年度の2年間をかけてつくりあげました。

## 1 まちづくり部会 平成24年11月～ 平成26年2月（全10回）

各学区でワークショップや話し合いを重ね、まちあるきでは地域の資源を再発見しました。



ゲストを招いて勉強会、ワークショップ、意見交換・・・まちあるきでは、三学区と学区外の方で交流しました。

まちづくりの方向性が見えました。ご協力ありがとうございました！



## 2 全員アンケート 平成25年2月

北山三学区住民全員と出身者にまちづくりに関するアンケートを実施。638名から回答をいただきました。

## 3 南山城村の視察 平成25年3月

まちづくり部会委員を中心に40名で京都府唯一の村へまちづくりの取組を視察に行きました。



ヒントがたくさん見つかりました！

# 守りたい、北山三学区の風景

私達は、このふるさとの風景を守り伝えていきます。



岩戸落葉神社[小野郷]



広がる農地[小野郷]



お地蔵さん[小野郷]



清滝川[小野郷]



日下部家住宅[小野郷]



草もち[小野郷]



山の風景[小野郷]



小野郷小中学校[小野郷]



豊かな自然[小野郷]



山間の町並み[中川]



花桃[中川]



北山台杉[中川]



シロスキ母樹[中川]



中川八幡宮[中川]



人のつながり[小野郷]



惟喬神社[雲ヶ畑]



鴨川起点[雲ヶ畑]



持越峠から見る集落[雲ヶ畑]



石垣[雲ヶ畑]



しゃくなげ[雲ヶ畑]



薪[雲ヶ畑]



紅葉[雲ヶ畑]



冬の鴨川[雲ヶ畑]



道風神社[中川]



北山丸太[中川]



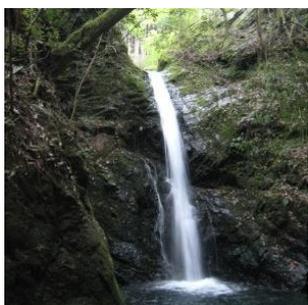
松上げ[雲ヶ畑]



サクラ[雲ヶ畑]



桃源山地蔵院[中川]



菩提の滝[中川]



北山杉[中川]

北山三学区まちづくりビジョン



もっと写真を見たい方は  
北山三学区ホームページへ！  
<http://kitayama3.jp/>

# 北山三学区の目指す姿

私達は、地域を未来へとつなぎ伝えていくために、北山三学区全体、そしてそれぞれの学区でビジョンを持ち、その実現に向けて手を携えて取り組んでいきます。

北山三学区まちづくりスローガン

・・・三学区を発信するときを使うキャッチフレーズです。

京都の街から30分、こんなところに、ありました。

いにしへの  
時間が

心の  
ふるさとが

こころの  
空間が



落葉姫の里  
小野郷  
-小野・大森-



北山杉の里  
中川  
-中川・杉阪・真弓-



鴨川源流  
雲ヶ畑



千年の時をかけて紡がれてきた、風景・風土。  
ここ北山三学区は、京都市市街地から近距離にありながらも、  
時代の変化に流されずにその自然や町並み、くらしが守られてきました。

今、さまざまな社会情勢の変化から、  
自然との関わりや人のつながりの中で営まれるくらしが見つめ直されています。

これまで、人や資源が交流しながらその営みを続けてきた北山三学区は、  
これまで以上にお互いのつながりを深め、ともに豊かな地域をつくるスタートを切ります。

北山に流れる時間、空間、そしてそこに暮らす仲間たち。  
「こんなに近くに、確かにあった」という驚きを改めて感じ、  
この地域の希少性、魅力を地域内外の目から再発見し、  
これからも守り伝えていきます。



# まちづくりの基本—7つの行動指針

私達は、この7つの行動指針に基づいて、まちづくり活動を行います。

## 北山三学区まちづくり「7つの行動指針」

1

### 地域の賑わいと静けさの両立を目指します

ふるさとであるこの地域を残したいという想いは、みんな共通です。そのために、人口やにぎわいを増やしながらかも、この静けさのある環境もかけがえのない宝物として大切に守っていきます。

2

### 様々な活動を、自由に考え実施できる場づくりをします

このビジョンのもとに、いろいろなまちづくり活動が自由に生まれ、実施されることを応援します。活動している人どうしが情報共有したり助け合ったりできる場を設け、活動団体や人のゆるやかな連携を目指します。

3

### まちづくり活動自体を一人ひとりが楽しめます

まちづくりは難しいことではなく、誰もが楽しみながら関われるものです。一人ひとりが自分事として考え当事者として取り組み、個人や団体、そのすべての活動がまちづくりの一環であると認め合える雰囲気づくりをします。

4

### 地域の歴史風土やここにあるものを活かします

「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」をし、北山三学区にある魅力、すばらしい資源を探し出して活かします。

5

### 身の丈に合ったまちづくりをします

地域に大きな負担をかけたり、一部の人が無理をするようなことではなく、みんながそれぞれ無理なく参加できるよう、身の丈に合ったことから始めます。

6

### 活動を地域の外と内へしっかり情報発信します

地域の魅力や情報を、地域の外へ向けてホームページなどで発信します。また外だけでなく、地域の中でもみんなの理解や協力のもとに活動が円滑に進むよう、しっかりと情報共有を図ります。

7

### 交流人口から定住人口へつなげます

地域の外との交流を楽しみながら、まちづくりのアイデアや人材を取り入れます。地域の出身者のUターンとともに、交流を通じてこの地域を愛し地域と関わりながら暮らすことを希望された方の移住を、積極的に受け入れていきます。



Oh!

No!

Go!

小野郷のいいところ・・・そういわれても、思いつかんあ。  
まあ、目の前に北山杉はあるし、川が流れて、蛍が飛んで、  
畑があって、イチョウの黄葉がきれいで、  
歴史もけっこうあるな。

京都の街から近いのに、「きちんと田舎」。

そうそう、誰でもウェルカム、  
誰でもすぐに「ふる郷」なところはいいとこかなあ。

きちんと田舎、行こうよ、小野郷。



# 小野郷学区のまちづくり

スローガン

## Oh! No! Go! きちんと田舎、行こうよ、小野郷

「何も無い」「静けさがある」ことを、京都市街の近くにありながら都会的なものがない貴重な環境「きちんと田舎」であると前向きにとらえ、これを大切に守ります。田舎のよさが残る小野郷に行こう！と、地域の外へ発信し、外部との交流を積極的に進めていきます。

また、地域内に向けたサブスローガンを「小野郷が変わる、小野郷を変えていこう」とし、小野郷のよりよいまちづくりに向けて住民主体で具体的に動いていくことを呼びかけていきます。

ひとことキャッチフレーズ

## 落葉姫の里

源氏物語の舞台となった小野郷、その登場人物であり岩戸落葉神社に祭られている落葉姫の名を借りて「落葉姫の里」とします。地域の歴史を知り、大切にするという想いも込められています。

## 小野郷学区の重点項目

休校中の小中学校や、福祉施設、空家などを活用し、交流活動に取り組み定住につなげます。



### ①小野郷小中学校の活用

休校になっている小野郷小中学校を、様々なまちづくり活動の拠点として活用していきます。また、大学などとの連携も視野に入れながら、地域のための活用を進めます。

交流と定住の拠点づくり  
&  
まちづくりを支える  
人づくり

### ②高齢者福祉施設の活用

平成27年4月に予定されている施設の開設を、交流人口や定住人口の増加の機会ととらえ、施設の協力を得て福祉をはじめとしたまちづくりの拠点として、中川学区とも連携・協働しながら活用することを目指します。

### ③空き家の活用

他の二学区とも連携しながら、交流・定住への空き家の活用のための情報収集、コーディネートを進めます。

## 小野郷学区の7つの行動指針

- ① **【賑わいと静けさ】** ホタルが舞う清滝川の流れ、豊かな田畑のある小野郷の静かな風景を守りながら、学区外の人とのにぎやかな交流をすすめます。
- ② **【場づくり】** 高齢者福祉施設や休校中の小野郷小中学校を、まちづくり活動の拠点として活用していきます。
- ③ **【自分事】** 高齢者も率先して、個人、様々な団体、それぞれ応援しあって、みんなのペースであせらず、力まず、あきらめず楽しくまちづくりに取り組みます。
- ④ **【あるもの探し】** 神社仏閣など貴重な文化財を守り、小野郷に伝わる歴史や物語を発信します。自然資源（木材、ヨモギ、野菜など）の加工や販売を楽しみます。
- ⑤ **【身の文】** 地域の資産である空き家の活用を目指して、情報収集とコーディネートをします。
- ⑥ **【情報発信】** 学区の中で幅広い年代への情報共有に努めます。学生などの協力も得て、インターネットなどで学区外、日本、世界へも小野郷を発信します。
- ⑦ **【交流と定住】** 学生や学区外との交流を促進するとともに、まちづくりを支える担い手の育成や外部人材の受入れに努めます。また、1ターンの実績もあることから、移住者を積極的に呼び込み受け入れていきます。

## 小野郷学区のシンボル



「イチョウ」

源氏物語の舞台ともなった岩戸落葉神社のイチョウをシンボルにします。青葉から黄葉へと変化するイチョウが、小野郷を変えていこう！という気持ちを表します。落葉姫の物語、小野郷の歴史も連想させます。

# 風景が、ごちそうです。

歩く、探す、何を？ それは、あなた次第

高くそびゆる北山杉  
世界一の枝打ち技術が育てました

町を縫うのは清滝川  
緑が満ち溢れ、ホタル舞う  
「わいもおいも」軒先に咲く、会話の花

この柚人の里には、  
ここにしかない言葉、ここにしかない風景があります  
一度歩いて味わってください  
この風景が、ごちそうです  
どうぞ逸品、添えてください

北山杉の里  
中川

-中川・杉阪・真弓-



# 中川学区のまちづくり

スローガン

## 風景が、ごちそうです。

中川学区民にとっては当たり前に見慣れてしまった、北山林業と密接にかかわって形成された自然や町並み、人のいる「風景」をもう一度見つめ直し、日常の中で味わいます。住民自らが、中川のよさや資源に気付くことから始め、この風景を守っていくための取組を行います。また、学区外の人たちにもこの豊かな風景を発信し、中川を訪れてもらい、私達から提供できるごちそうとして、味わってもらい伝えていきます。

ひとことキャッチフレーズ

## 北山杉の里

中川学区が発祥であり、数百年にわたり祖先が築き上げてきた北山林業は、伝統技術であり私たちのルーツです。自然と先人に感謝し、これからも山や木とともにある暮らし、技術を守り伝え、地域のシンボルとしていくという想いを込めて「北山杉の里」を発信していきます。

## 中川学区の重点項目

中川学区ならではの豊かな「風景」を活かして、情報発信や交流活動をすすめて、観光や購買につながる産業の創出や定住につなげていきます。

### ①交流人口の増加

国内外、老若男女問わず、学区外の人との交流促進を図ります。またその中から、地域の情報発信や地域資源の活用に協力してくれる人材を発掘し、定住希望する人には情報提供などのサポートをしていきます。



交流しよう！

発信

### ③情報発信

交流促進のために、資源や人に関する情報を発信し、さらに交流する人がインターネットなどで中川学区を発信してくれるように促します。また、学区内でまちづくりに関する情報をしっかりと共有します。

### ②産業づくり

北山林業再興に取り組みとともに、地域産の食材・素材を活かした加工販売や、文化的景観の指定も考慮した観光資源としての景観のPRなど、地域資源を活かした新たな産業をつくりまします。



風景や資源を活かそう！

## 中川学区の7つの行動指針

## 中川学区のシンボル

- ① 北山杉の木立が織りなす静かな風景を守りながら、交流を増やしていきます。  
【賑わいと静けさ】
- ② 誰もがまちづくりに参加できる場としての「まちづくり部会」を継続し、地域内情報の共有を図ります。  
【場づくり】
- ③ まずは、やってみることから。他人を「否定しない」意識づくりに努め、誰もが自由にまちづくり活動を楽しめるように応援し合います。  
【自分事】
- ④ 北山杉や学区の歴史について勉強し、足元にある資源を発掘することからはじめ、北山林業とともにある伝統や文化を守り伝えます。  
【あるもの探し】
- ⑤ 地域外のカモ借りながら、無理なくできることから実施します。  
【身の丈】
- ⑥ 自治会新聞や景観だよりを発行し、自治会や各種活動の動きを学区内で共有します。  
【情報発信】
- ⑦ 日本の暮らしに興味のある外国人も含め、まちづくりNPO設立なども視野に入れながら、まず交流・人の往来を増やします。  
【交流と定住】



「台杉」

中川学区で編み出されたと言われている「台杉」仕立ての北山杉をモチーフに、元気に伸び行く様子を表します。また「地域内での活動や取組はたくさんあっても、それぞれの根っことは同じ思いでつながっている」という、まちづくりに対する考え方を表しています。

# しあわせの再発見

## 鴨川源流 雲ヶ畑 「京都で一番青空に近い村」宣言

ここは千年の昔、平安京造営のために杣人が移り住んだという村、  
いまも、山や木々と生きる豊かなふるさとがここに 있습니다。  
わたしたちには、捨ててはいけななものがあります。  
親から子へ世代を超えて紡がれてきた想いのたすきを、つないでいきたい。  
先人のため、未来の子どもたちのため、雲ヶ畑を愛する人のために。

そのためにわたしたちは、どこか遠くにいる青い鳥を探し求めるのではなく、  
もう一度、足元にある幸せを見つめ直し、噛みしめてみることにしました。

わたしたちは、

- ・雲ヶ畑のルーツである山や木に根差し、山紫水明の自然とともにある暮らしを楽しみます
- ・営みとしての林業、田畑、鴨川の水を守り、風景・風土をつくります
- ・家族との時間を大切にし、よその子も叱れるおっちゃん、おばちゃんでありつづけます
- ・協定の心を大切にし、みんなで絵に描いたようなかわいい山村を目指します
- ・惟喬親王ゆかりの地、そこにあふれる歴史ロマンや、松上げなどの伝統行事を伝えます

鴨川源流、こんなところに、幸せのカタチがありました。

鴨川源流  
雲ヶ畑



# 雲ヶ畑学区のまちづくり

## スローガン

### しあわせの再発見

雲ヶ畑学区民の個々人が、イキイキとすることこそがまちづくりであると考え、忘れていた日常にある足元の幸せをもう一度見つめ直し、日々の暮らしの中の楽しみを再発見していきます。

また、学区外に住む人にも、都会では忘れられかけている大切なもの―「自然と調和し助け合う生活という幸せのカタチ」を、雲ヶ畑を訪れて気づいてもらいたい、雲ヶ畑から発信していきたい、というメッセージも込められています。

## ひとことキャッチフレーズ

### 鴨川源流

先祖代々、都に流れる鴨川の水を守ってきた歴史をふまえ、自然とともにある雲ヶ畑の暮らしを発信する意味を込めて、「鴨川源流」のこの土地を誇りにしていきます。

## 雲ヶ畑学区の重点項目

雲ヶ畑で暮らし続けるために不可欠な、地域の絆、産業、定住と交通の基盤づくりを同時にすすめます。

### ①地域の絆

地域行事などを通して雲ヶ畑に住む人の絆を深め、助け合い支え合える人間関係を大切にします。

交流しよう！



### ④交流活動

「雲ヶ畑ファン」との交流を基本に、休校中の雲ヶ畑校も活用し、さらなる交流の広がり、定住につながる取り組みを継続し深めていきます。

### ②産業の創出

林業再生、そして地域資源を生かした食品などの特産品開発に取り組み、地域で収入を得られる生産と流通の確立を目指します。

### ③定住と交通

空き家を活かし定住増加を目指します。「もくもく号」を維持運営し、生活基盤に関わる課題の解決を目指します。



## 雲ヶ畑学区の7つの行動指針

- ① 交流・定住人口を増やしにぎわいを目指しながらも、美しい鴨川の流れや豊かな自然環境を守り続け【賑わいと静けさ】 けます。
- ② 時代に合わせた形で、住民どうしがまちづくりについて地域で話し合える場を、これまでも、これから、持ち続けます。【場づくり】
- ③ 個人、団体、企業、いずれの活動もまちづくりにつながっている、同じ方向を向いているという意識を持ちながら、それぞれの活動を無理なく楽しみ【自分事】 みます。
- ④ 惟喬親王の物語や歴史、鴨川源流の自然環境・風景、松上げなどの伝統行事を守り伝え、発信【あるもの探し】 します。
- ⑤ 人口の少ない雲ヶ畑。一人に負担をかけたり無理【身の丈】 することなく、みんなで協力して活動します。
- ⑥ 自治会のホームページや新聞（紙媒体）などで学区内外に情報を発信【情報発信】 します。
- ⑦ 林業サークルや各種団体との交流をベースに外部との交流を広げ、次のステップ（定住）へつな【交流と定住】 げる取組を進めます。

## 雲ヶ畑学区のシンボル



「雲と山と鴨川」

雨が降ると霧が立ち込める、雲の上の雲ヶ畑。薪を使う生活から、煙が立ち込める雲ヶ畑。そんな風景を表し、またその雲から降った雨が鴨川になる様子を表します。

# 北山三学区の重点項目

私達は、この3項目を北山三学区共通の重点項目として、三学区で協力し連携しながら取り組みます。

## 1 人口をもっと！ 空き家を活用

交流人口・定住人口  
の増加と  
空き家活用

### (1) 空き家の活用

地域の資源である「空き家」は、交流と定住を増やすために

#### ①交流拠点 ②一時的な滞在 ③定住

の3つの用途での活用を検討します。そのために地域外へ情報発信するとともに、三学区で空き家情報を共有し、問い合わせがあった場合に対応できる体制を整えます。

<空き家活用のステップ>

#### 認知

交流人口の増加を目指し、誰に知って、来て、住んでほしいかというターゲットを明確にし、共通のホームページなどで情報発信し、まず北山三学区について「知ってもらう」ことを目指します。

#### 交流

イベント等の活動を継続し、交流人口を増やし、地域の「ファン」や「応援団」をつくります。三学区で連携した交流の取組も検討します。

#### 定住

交流人口の中から定住希望の人が出た場合には、地域から情報提供などの支援を行います。

### (2) 市街化調整区域におけるまちづくり

市街化調整区域の制度により守られているもの（自然環境や景観、静けさ）があることを認識したうえで、ビジョンに基づいたまちづくりが実現できるよう、行政の情報提供などの支援を受けながら、諸活動をすすめていきます。

様々なまちづくり活動を実行し、コーディネートする人材を、地域の内外で発掘します。

## 2 誰がやるの？

実行人材の発掘

#### まちづくり 部会

誰もが参加しやすく、情報共有と協力関係の構築ができる地域のまちづくりプラットフォームとして、また様々なアイデアの実行部隊としての「まちづくり部会」を継続します。

#### 外部人材

まちづくりに関連するノウハウを持つ外部人材の協力を得て、ビジョン実現へ向けて取り組みます。そのために公的助成等の活用も検討します。

## 3 伝えよう！

地域の外と内への  
情報発信

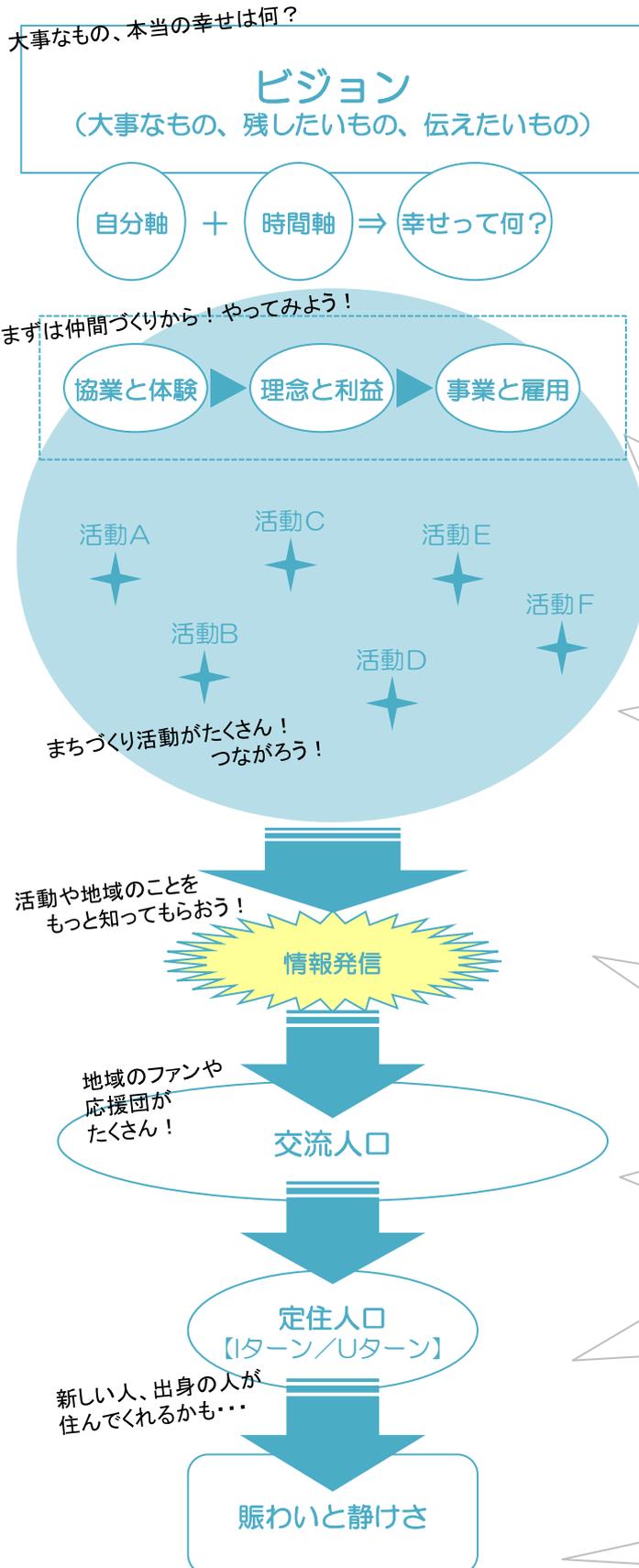
交流と定住人口を増やすためのきっかけとして、学区外の人に「知ってもらう」ことが必要です。三学区の共通ホームページ、各種インターネット、SNS、紙媒体、イベントなどいろいろな手段で、地域の情報や魅力を発信しつづけます。

また、学区住民がまちづくり活動に参加しやすいように、学区の内へ向けての発信にも取り組みます。



# まちづくりの進め方（フロー）

私たちは、このような手順でまちづくりを進めていきます。



## ステップ1 ビジョン（将来像）に立ち返る

自らの立ち位置をどこに置くか（自分軸）、どんな時代にいるのか（時間軸）、二つの軸から考えた地域の本当の「幸せ」、大切にしたいもの、後世へ伝えたいものをまとめたのがこのビジョンです。様々なまちづくり活動がこのビジョンに沿っているか、常に照らし合わせながらまちづくりをすすめます。

## ステップ2 まちづくり活動自体を楽しむ！

楽しくまちづくり活動をしていると、関わる人がイキイキします。それ自体が「活性化」となり、まちづくりになります。

※それぞれの活動は、このような流れで発展します。

「協業と体験」→「理念と利益」→「事業と雇用」

- ①まずは地域内外の人と一緒に汗を流し、体験して、人とのつながり、仲間をつくります。
- ②「何か活動したい」と思ったら、その活動によって理念を実現したいのか、利益を得たいのか、などのバランスを見極め、方向性を話し合います。
- ③活動（事業）を実行します。その中で雇用も生まれます。

## ステップ3 活動どうしがつながる

地域にいろいろな活動が生まれます。個人、団体、企業など、形は違って、お互いに情報交換したり、協力し合える場をつくり、「つながる」ことでより活動が充実していきます。

## ステップ4 情報発信する

「こんなことしているよ」というまちづくり活動の情報を、地域の内外へ情報発信し「知ってもらおう」ことを目指します。そこから地域内に仲間が生まれたり、地域外の人に関心を持ってくれます。

## ステップ5 交流人口が増える

情報を発信することで、地域を訪れ、地域の「ファン」になって応援してくれる人、一緒にまちづくり活動をしてくれる交流人口が増えていきます。

## ステップ6 定住人口が増える

交流人口の中から地域に定住を希望する人が出てきます。地域住民は、空き家情報の提供など定住に向けたお手伝いをします。また移住者は、地域にすでにある色々なコミュニティに参加することで、移住後に地域での人間関係を築きやすくなります。外からの交流人口が増えてにぎやかになると、出身者も帰ってくるかもしれません。

## ステップ7 地域の「賑わい」と「静けさ」の実現

人口が適切に増えることで、地域の賑わいと静けさという二つのよさが両立します

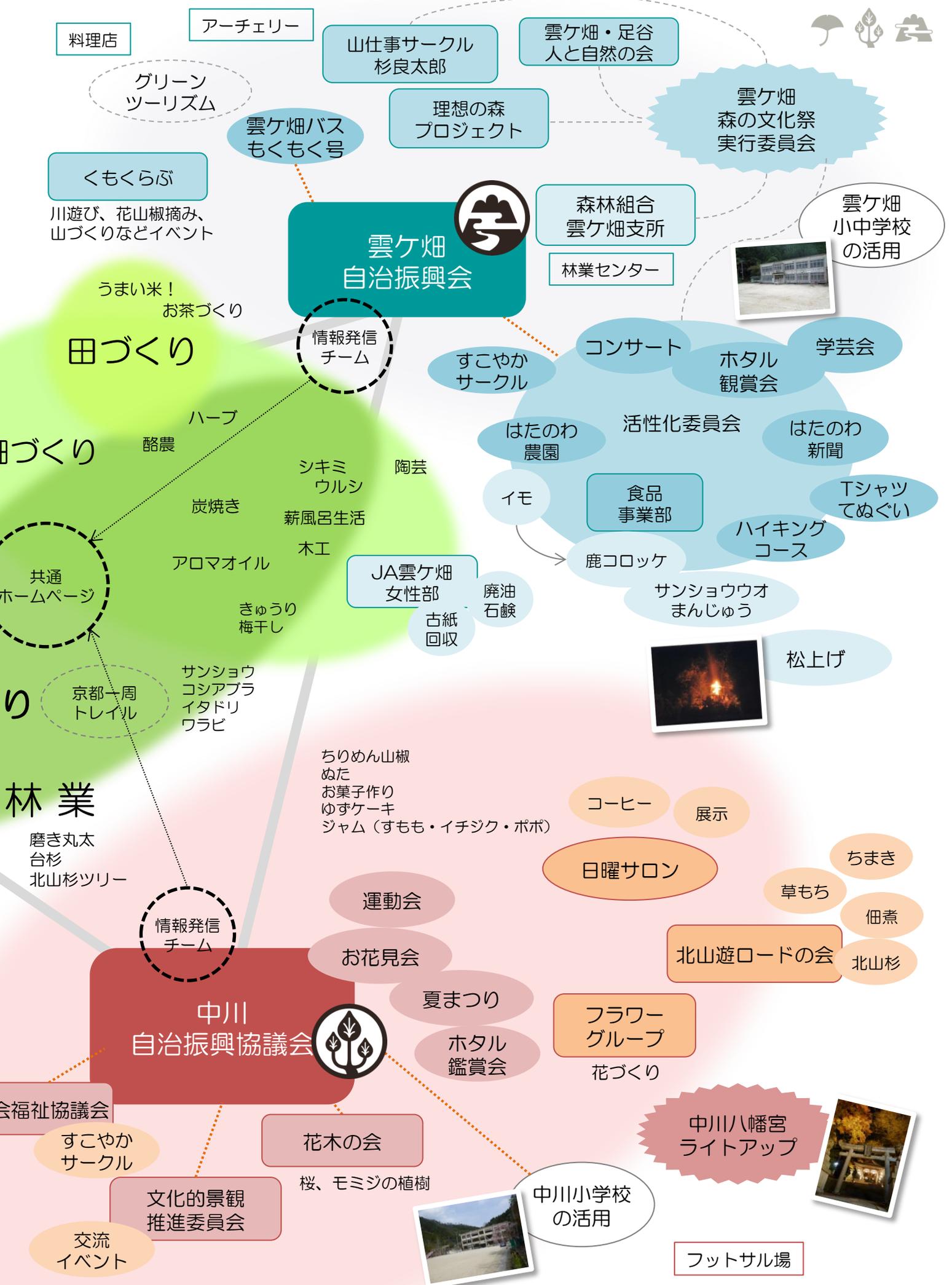
# まちづくり活動map

マップ



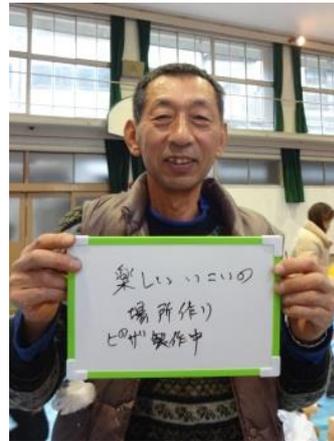
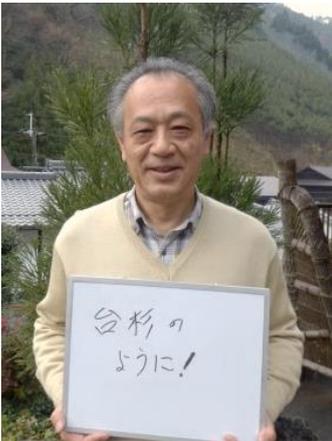
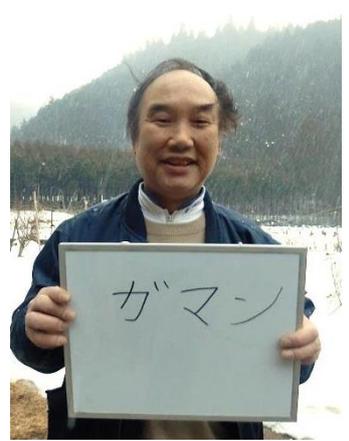
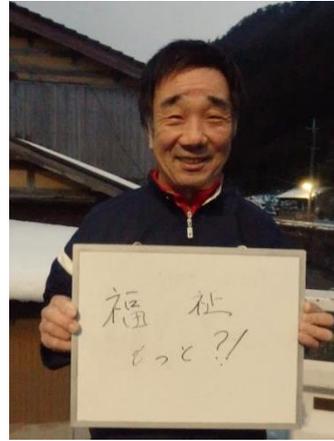
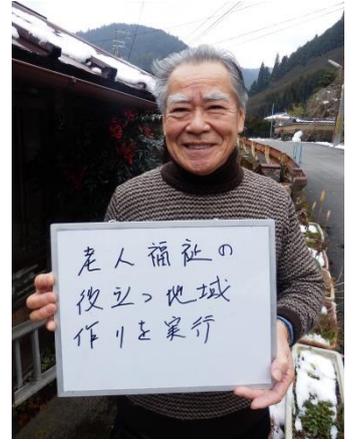
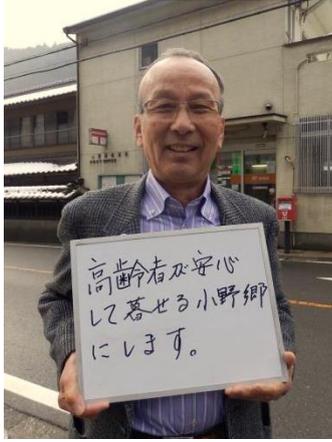
私達は、個人で、団体で、こんなまちづくり活動を楽しんでいます。

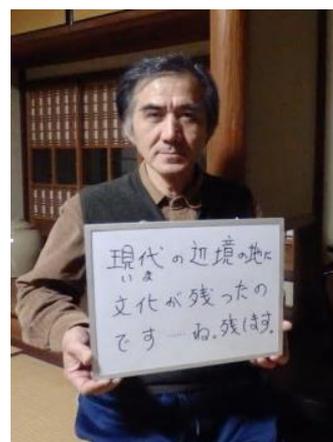
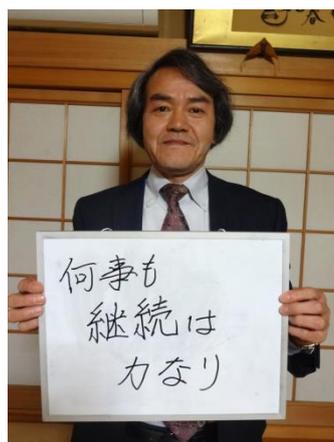
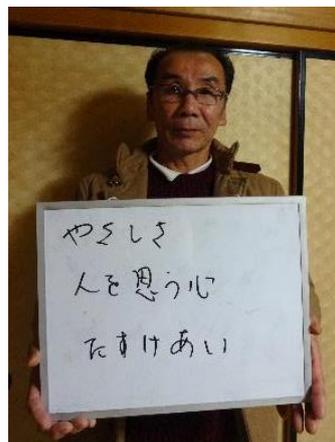
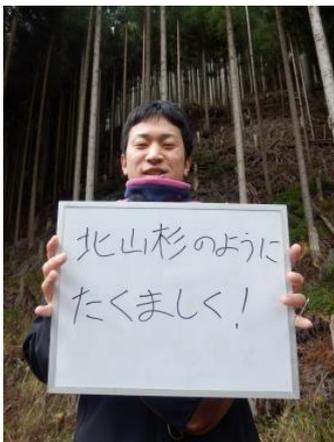
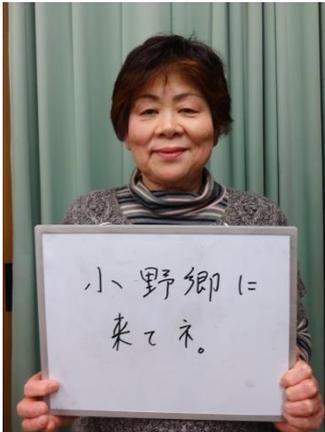




# マイビジョンーみんなが描く、北山三学区の未来

私達は、こんな北山三学区を目指しています。一人ひとりがまちづくりの一員です。





# 参考資料：アンケート結果

平成25年2月に実施した、三学区民全員を対象としたまちづくりアンケートの結果概要です。  
これらの声をもとに、このビジョンを作りました。

※アンケート結果は各出張所で配布しています。

- 対象 北山三学区（小野郷、中川、雲ヶ畑）にお住まいの方、および地域出身の方
- 実施期間 2013年2月中旬
- 方法 自治会と北区によるアンケート用紙の配布・回収
- 回答者数 小野郷…227名、 中川…288名、 雲ヶ畑…123名

問：学区の中で好きな所を、具体的に3つお書きください。

( )内は票数

	小野郷	中川	雲ヶ畑
1位	神社仏閣(58)	北山杉・北山林業関連(83)	自然(29)
2位	自然(47)	神社仏閣(74)	四季(19)
3位	きれいな水、空気(34)	自然(37)	神社仏閣(18)
その他 特徴的な 回答	・おいしい野菜 ・農地や田園風景 ・草もち	・菩提の滝 ・清滝川 ・町並み ・街道	・鴨川の源流 ・松上げ ・地域の強い結びつき

問：今、不安なこと・困っていることは何ですか？

→三学区とも「交通」という回答が最も多くなりました

問：10年後に不安なことは何ですか？

→三学区とも「地域の存続」に関わる回答が最も多くなりました

その他の回答： ・隣近所の人たちとのつながり ・仕事 ・歴史、文化、伝統の継承  
・北山杉（伝統産業） ・運転が出来なくなった時の買い物 ・後継者 ・災害時の対応  
・子たちに、この地域をきちんとバトンタッチできるか

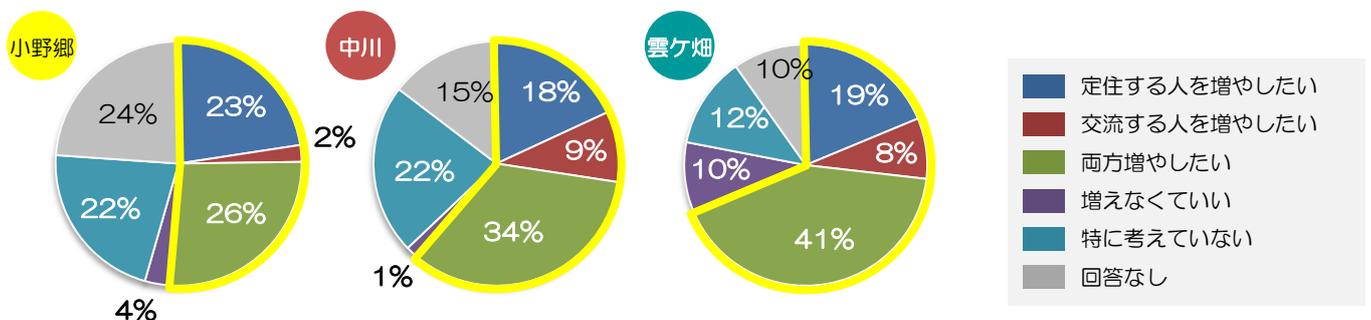
問：100年後にも残したいもの、伝えたいものは何ですか？

(回答例)

小野郷	中川	雲ヶ畑
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の風景、環境の美しさ</li> <li>・空気のうまさ ・小野郷小学校</li> <li>・林業 ・歴史、神社仏閣 ・農地</li> <li>・文化、風習、料理</li> <li>・温かい人の心 ・故郷</li> <li>・地域のつながり ・郷土愛 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山磨き丸太 ・北山杉</li> <li>・都市部にはない人のあたたかさ</li> <li>・地域行事 ・歴史的風土</li> <li>・美しい自然とみんなの笑顔</li> <li>・中川独特の生活様式、食文化</li> <li>・清滝川の流れ、川遊び など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴨川上流域としての自然と環境</li> <li>・美しいみどりの山々清い川</li> <li>・家並みの美しさ ・林業</li> <li>・炭焼き ・松上げ等の伝統行事</li> <li>・人情 ・屋号 ・素朴な子供たち</li> <li>・歴史ある神社、仏閣 など</li> </ul>

問：学区の人口について、どうしたいですか？

→三学区とも人口を増やしたいという回答が半数以上でした



問：どのように定住する人を増やしたいですか？

→三学区とも移住を増やすという回答が最も多くなりました

- 1位 出身者以外の移住者も積極的に増やすべき
- 2位 出身者以外が移住してきても構わない
- 3位 出身者に帰ってきてほしい



# 参考資料：まちづくりキーワード集

このビジョン策定の過程で登場した、まちづくりに関するキーワードを解説します。

## 【自分軸】

自分にとっての「日常」「非日常」とは何かを考え、どの視点から見るかということ。たとえば、都会に日常を置けば田舎は非日常の魅力的な場となり、その逆も成立する。自分の居住地が不便だと思っても、より不便な場所があることを知れば、考え方が変わる。そういった「相対的価値基準」を持つことで、まちづくりにおいて何を大切にすべきかが見えてくる。

## 【時間軸】

地域の過去・現在を知り、考えることが、未来の行動のヒントとなる。現在問題とされている人口減少は、現在と近い将来を考えれば問題に見えるが、長い歴史を見れば日本の人口が現在の水準に達したのはここ50年程度の劇的な変化の結果である。とらえる時間のスケールを広げてまちづくりを考えると、違った視点が生まれてくる。未来を見通すために、過去に学ぶことは多い。

## 【まちづくりの3段階】

### ①協業と体験

まずは、地区内での協業体験やイベントを通して交流を行い、共に行動し、動き、汗をかきながら体験し、打ち解けあっていくこと。

### ②理念と利益

お互いを知り、仲間づくりができた時点で初めて、スムーズで有意義な議論ができる。そこで、地域で大切にすべきものは何か、環境と経済、文化と人口などといったテーマを考える。決まった方針に沿って、その後の行動を組み立てていく。

### ③事業と雇用

実際に事業を実施し、雇用増加や人口増加につなげていく。その際に、方針を持って実現力ある活動主体をつくるためにも、①および②の段階が不可欠である。

## 【ビジョンとゴール】

こうありたいという「夢」や「理想」のこと。これが地域の内外で共有されると「地域のビジョン」となる。共有する方法は2種類あり、①文字や文章にする、②絵や図・画像にする、である。「ビジョン」に具体的な「数字（日付、金額、個数・人数など）」を加えたものが「ゴール（目標・戦略）」である。これらを具体的に定めることで、目標の実現に向けてどのように行動すべきか、企画することができる。

## 【交流人口と定住人口】

観光客や、地域に通って諸活動を行う個人や団体などを「交流人口」といい、また地域に定住する人口を「定住人口」という。定住人口を増加させる手法には2種類ある。①定住支援補助金、空き家バンクなど、直接「定住」を目的とした制度・仕組みを設けるものと、②イベントなどで交流人口を増やし、その中で地域を好きになった一部の人を「定住」につなげるものである。

## 【Iターン、Uターン】

移住の形態のこと。出身地域以外への移住を「I（アイ）ターン」、一度出身地を出て戻ってくることを「Uターン」という。近年は住みよい土地を求めて都市部から中山間地域にIターンする若者も増えている。

## 【景観10年、風景100年、風土1000年】（雲ヶ畑部会）

景観は10年で作れるが、風景をつくるには100年、また自然環境や暮らし、文化も含めた風土を築き上げるには1000年を要する。北山三学区にはこの風土があることを大事にしたい。

## 【3つの間：時間、空間、仲間】（小野郷部会）

現代の子どもは、山間地域でも外で遊ぶことが少なくなった。これは、学習塾などに行き遊ぶ時間が減り、環境変化で遊べる空間が消え、そして近所付き合いの変化から遊びを教えてくれる仲間がいなくなったからといわれる。この3つの「間」がなくなると人は「間抜け」になるという。

## 【中川の方言】（中川部会）

中川北山町にはこの地域独特の方言がある。「わい」＝私、「おい」＝あなた、語尾に「～ちゃん」を付けるなど、地域の人は日常では使わない言葉も多いが、子どもたちの言葉遊びなどに残っている。

### ～このビジョンの使い方～

このビジョンは、私達北山三学区の住民が自ら考えて作りあげた、地域の「夢」「将来像」です。これからのまちづくりを考える時に、以下のように役立てます。

- ①これからすすめるまちづくり活動が、地域の夢につながっているか、このビジョンを読んで振り返ります。
- ②地域の中でまちづくりの方向性の違い・ズレなどがおこったときに、このビジョンをもとに話し合います。
- ③自分の宣言した「マイビジョン」を見ながら、それを達成するために今どのステージにいるか、確認します。
- ④地域の中や外の人に協力を求める時、このビジョンを見せながら、地域の夢を語ります。
- ⑤このビジョンに書かれたスローガンや文章、シンボルマークを地域の情報発信のときに繰り返し使い、地域内外にメッセージを伝え続けます。
- ⑥このビジョンは、100年後、1000年後に地域を残すために今後5年から10年の間にやるべきことの指針です。必要に応じて地域のみinnで話し合った上で、時代に合わせて変更します。
- ⑦このビジョンをもとに、さらに夢を膨らませ、よりよいまちづくりに向けてどうしたらいいか、地域で話し合う「きっかけ」にしていきます。



北山三学区共通ホームページ  
<http://kitayama3.jp/>

平成26年3月

作成：小野郷自治会、中川自治振興協議会、雲ヶ畑自治振興会、  
京都市北区役所

発行：京都市北区役所地域力推進室